

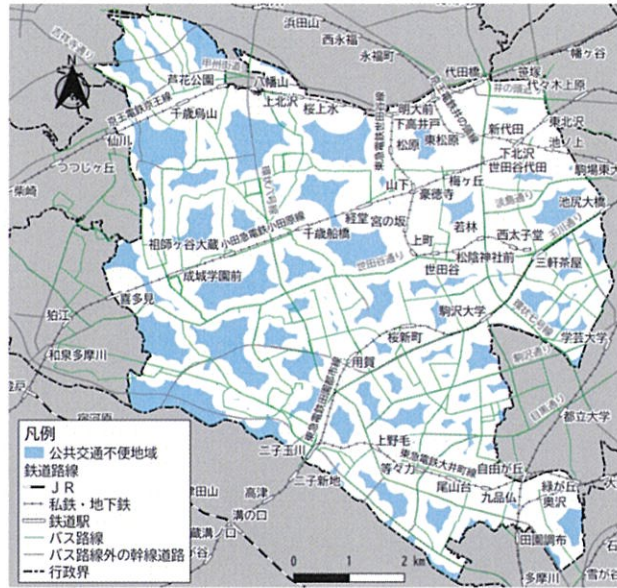
実施結果報告書

1. 学校名 : サレジオ国際学園世田谷中学高等学校					
2. 学習名称 : 世田谷区の乗合ワゴン実証実験への参画を通じて考える デマンド型交通～社会科の授業内における「交通化」授業の実践～ (活動 NO. 1-2)					
3. テーマ : 行政と連携し、学校が立地するエリアで行われているデマンド型交通の実証実験に参画し、地域交通の未来に貢献した。具体的には、以下の 2 点の活動を実施した。 (1) 高校 1 年の「地理総合」における学習 複数の学習単元を環境交通学習と関連付け、持続可能な地域交通について学習を深めた。その上で、乗合ワゴンの利用促進に関する行政への提案を行った。 (2) 探究講座の開講 希望者対象の探究講座を開講し、乗合ワゴンの試乗を含むフィールドワークを実施した。成果物として、乗合ワゴンを PR するチラシを作成し、地域に配布した。					
4. 実施教科 : (1) 地理総合 (2) 探究講座					
5. 関連単元 : ○教科書 : 帝国書院『新地理総合』 第 1 部「身の回りの地図」「統計地図」「交通網の発達」「通信網の発達」 第 2 部「人口問題」「都市・居住問題」 第 3 部「地域調査」					
6. 実施単元数 : (1) 5 時間 ※授業 1 時間＝45 分 (事前学習 1 時間、準備 2 時間、発表 1 時間) (2) 2.5 時間 (10:00～12:30) ×3 日間					
7. 学年	(1) 高校 1 年 (2) 希望者	8. クラス数	(1) 2 クラス (2) 希望者	9. 生徒数	(1) 64 人 (2) 5 人

10. 実施内容

○実践に至った経緯

本校が位置する世田谷区大蔵地区に隣接する砧地区が「公共交通不便地区*」のモデル地区に選定され、2023年度から世田谷区初のデマンド型乗合ワゴンの実証実験が3か年計画で行われている。これは、ワゴン車両とAIを活用したコミュニティ交通であり、利用者は電話やインターネットで予約し、希望する地点で乗降できる仕組みである。実証実験2年目にあたる今年度、世田谷区からの提案により、本校の授業でこの取り組みを題材として扱うことになった。



*世田谷区では、鉄道駅から500メートル以上、バス停留所から200メートル以上離れている地域を「公共交通不便地域」と定めている。

実践にあたっては、世田谷区の複数の部署と連携した他、仙台市の乗合交通「のりあい・つばめ」の運営に関わる「燕沢乗合タクシー運営協議会」のメンバーにヒアリングを行ない、また、地域政策・交通計画の専門家の助言を受けた。

(1) 地理総合「地域の交通を創る！乗合ワゴン利用促進プロジェクト」

高校1年生の「地理総合」の授業において、「地域の交通を創る！乗合ワゴン利用促進プロジェクト」を実施した。生徒はグループごとに地域の地理的特性や乗合ワゴンの利用状況を分析し、その結果を踏まえた利用促進案を世田谷区の担当部署に提案した。その結果、オリジナルのノベルティグッズの作成につながった。

本実践に先立ち、地理総合の複数の単元において、環境交通教育の視点を取り入れた授業を実施した。

(2) 探究講座「未来の交通を創る！乗合デマンドプロジェクト」

地理総合の授業を受けて、希望者を対象とした夏休みの探究講座「未来の交通を創る！乗合デマンドプロジェクト」を開講し、より実践的な探究活動を行った。この講座には中学1年生から高校2年生までの希望者5名が参加した。(乗合ワゴンの乗車人数が最大8名のため、5名を参加人数の上限とした。)

成果物として作成した乗合ワゴンを紹介するチラシは、対象エリア(砧・大蔵地区の他、祖師谷や桜丘の一部)に計2万3,000部配布された。

1 1. 学習のながれ：

(1) 地理総合「地域の交通を創る！乗合ワゴン利用促進プロジェクト」

①乗合ワゴンを知ろう（世田谷区職員による特別授業）…1時間目（2クラス合同）

世田谷区交通政策課と砧まちづくりセンターの職員による特別授業を実施した。地理的な分析によって、本校が位置する大蔵地区に隣接する砧地区が「公共交通不便地区」のモデル地区が選ばれたことを学び、実証実験1年目の成果と課題についてお話を伺った。

②グループ活動（プレゼンテーション準備）…2～3時間目

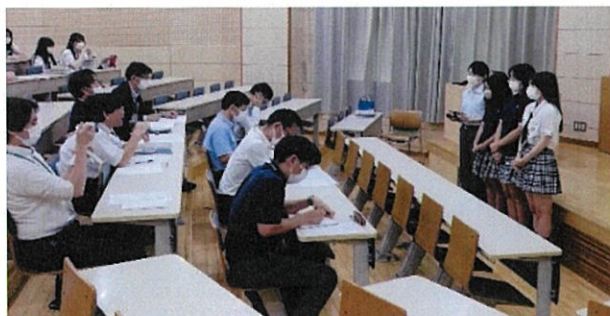
3～4人のグループに分かれて、ミッションについて話し合いを行い、プレゼンテーションの準備を行った。限られた時間の中で、話し合いの時間を確保して提案内容を深めるために、プレゼンテーション用のスライドのベースは教員がつくり、Teamsで配信して生徒は協働でスライド作成にあたった。

▼生徒に配信したスライドのフォーマットの一部

地域の交通を創る！ 乗合ワゴン利用促進 プロジェクト 4年〇組〇班 メンバー：メンバー名（名字）を記入する	着目した情報 キャッチフレーズを考えた根拠をデータや地図を用いて、分かりやすく説明しよう。	利用促進のアイディア キャッチフレーズ以外でも、利用促進につながるアイディアが是非紹介してください。どうすれば自分が乗りたくなるか、を考えてもいいかも～
次からのページは、配付資料に載っている図です。必要に応じて使ってください。	利用件数（年代別の割合）	学校近乗合ワゴン 運行マップ
利用者数推移	時間帯の平均利用者数	これらのスライドの中から、生徒たちが情報を取捨選択し、提案内容を短時間でプレゼンテーションにまとめた。

③行政へのプレゼンテーション…4時間目（クラスごと実施）

クラスごとに、8つのグループがプレゼンテーションを行った。世田谷区からは交通政策部部長をはじめ、関係部署の職員8名が参加した。グループの発表ごとに職員から講評を受け、質疑応答の時間を取った。



▼アイデアが採用されたチームのスライドの一部

地域の交通を創る！ 乗合ワゴン利用促進 プロジェクト

4年B組4班

Q、乗り合いワゴンを一字で表す漢字を当てはめよう

気

↓

??々 ← 楽 → しい

↓

勝

着目した情報

利用者の **75%** が60代以上！
→高齢者をターゲットに

利用促進のアイデア

- 車体のデザインを変える
→今のデザインがちょっと救急車っぽい…
ex) 森をイメージしたデザイン
- スタンプ制度
→スタンプが溜まったら砧地区のスーパーで使える割引券をプレゼント
ex) スーパーの割引券
- エコバックを配布

時間帯の平均利用人数

利用者が**10時台**と**16時台**に集中
→買い物に行く人が多いのではないかと。

世田谷区から提供されたデータや資料を分析し、グループごとに提案を行った。利用者が多い時間帯から、「買い物のために利用する人が多いのではないか」という仮説を立てて、オリジナルのエコバックの作成を提案した。仮説は「買い物目的の利用も多い」という実情と合致しており、アイデアが採用された。

【生徒の感想（抜粋）】

- ・世田谷区の新たな取り組みを知ることができた。また課題解決の方法を学ぶこともできたのでこれから活かしていきたい。
- ・実際にあるプロジェクトなので、重大な責任感もあり発表も緊張しました。グラフから傾向を読み取って問題解決につなげる力の大切さが分かったし、授業や試験の問題の考え方は大人になっても必要とされているのだと学んだ。
- ・今回の発表を通してデータをもとにいろいろと調べていくうちに乗り合いワゴンのことや世田谷区の地域を多角的に見ることが出来た。一つのことに焦点を当て様々なデータを使って多角的に物事をとらえることで問題解決や今後の対策、向上が出来ると学ぶことが出来た。
- ・どうすればより多くの方に使っていただけるかななどをよく考え、マーケティングと似たようなことを体験できてよかった。

（２）探究講座「未来の交通を創る！乗合デマンドプロジェクト」

【１日目】乗合ワゴン乗車体験およびフィールドワーク

乗合ワゴンの乗車体験、砧まちづくりセンターの訪問と交通政策課職員による研修、祖師ヶ谷大蔵駅前でアンケート調査を実施した。



【２日目】利用促進のためのチラシ案の作成

フィールドワークで得られた情報を基に、地域に配布するチラシの内容について検討した。

【３日目】専門家によるオンライン講義

および砧まちづくりセンター職員との意見交換会

地域政策・交通計画を専門とする専門家のオンライン講座を受講した。質疑応答では生徒から鋭い質問も出されていた。

また、砧まちづくりセンターの職員と、地域に配布する乗合ワゴンPRのためのエコバッグのデザイン案を考えた。

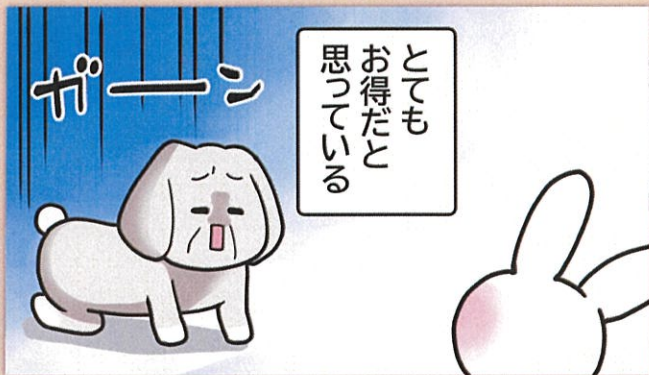
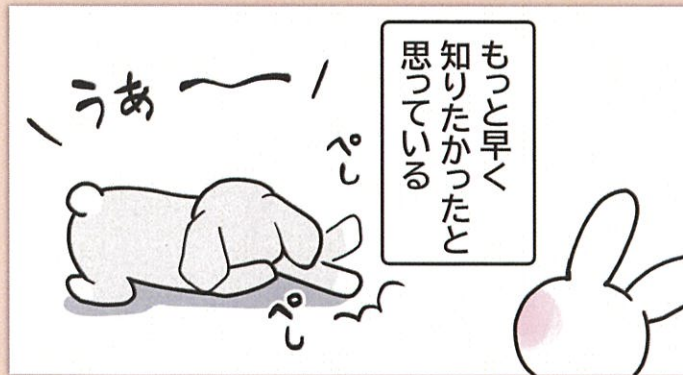
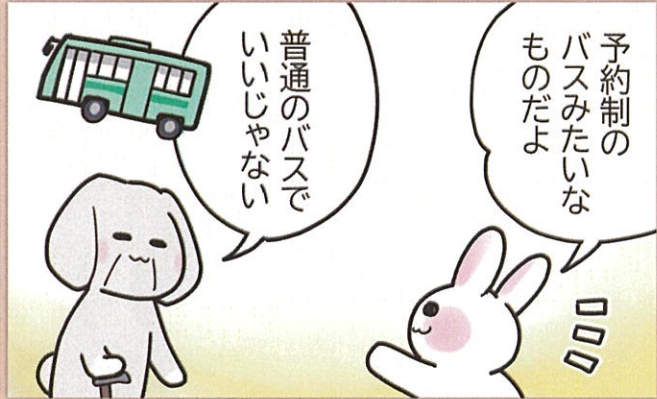
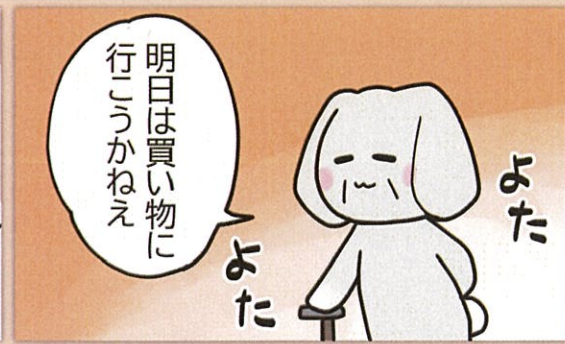
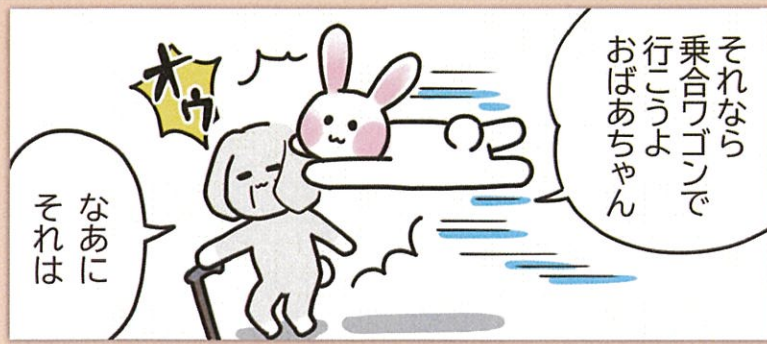


▼制作されたエコバッグとデザイン部分の拡大図

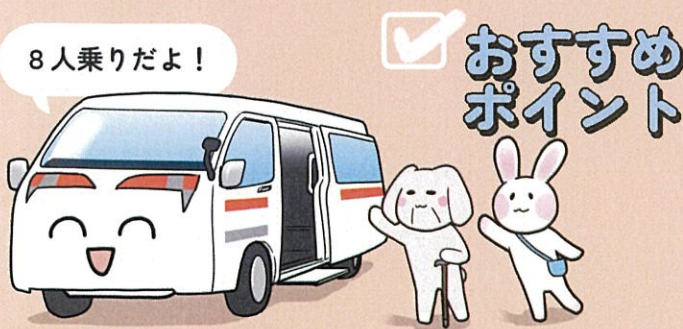


エコバッグのデザインは、探究講座の一環として、講座の参加者が区の担当者と意見交換しながら決定した。完成したエコバッグは、地域のイベント等で配布されている。

サレジオン国際学園世田谷中学高等学校の
生徒による **乗合ワゴン** おすすめまんが



※砵まちづくりセンター等で発行している割引証の提示が必要



- ✓ 乗合だからワゴンの中で近所に住んでいる人とおしゃべりウェルカム! 仲良くなれるかも
- ✓ 坂道や狭い道もスムーズに進める
- ✓ 重い荷物も運んでくれるので買い物も安心
- ✓ 座り心地が良い



✓ **スマホで簡単予約**

ワゴンが今どこにいるのか分かる!

安心・安全

もちろん電話予約もOK

お支払い



乗車・降車地点には目印があって分かりやすい!

予約制乗合ワゴン
乗降地点
祖師ヶ谷大蔵駅

街の人の声

乗合ワゴンを知らなかった人の声

普段の移動手段が自転車なので、急な坂道が大変です。乗合ワゴンが近くにあれば使いたいです！

30代 女性

利用者の声

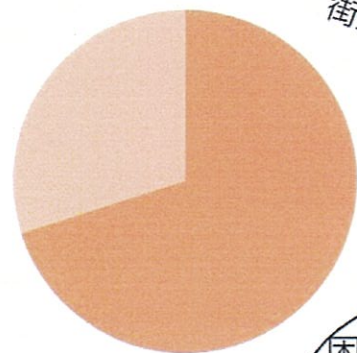
徒歩だと時間がかかる場所にも乗合ワゴンで気軽に移動できるので、とても助かっています

80代 女性

普段の移動手段に困ることがある/ない

困ることがない
30%

祖師ヶ谷大蔵駅での
街頭調査(生徒調べ)



困ることがある
70%



生徒が乗ってみた感想！

乗るときにステップがあったり、椅子が柔らかかったりと、乗合ワゴン自体が高齢者にやさしい作りになっていると思いました

M.S

地域のために活躍している乗合ワゴンは移動手段に不便を感じている人にとって、とても助かる便利な存在だと思います

T.Y

乗合ワゴンをより良くするために、おもちゃ等を置いておくと、リピーターが増えるかと思いました。またルート次第では東京23区の頂点を通れることもオススメです！

H.S.S

人気の時間帯には予約が取りづらいことが課題だと思いました。しかし、狭い道や坂道を素早く通れて、移動手段として快適でした

L.K

困ることの例

- 寒さや暑さが厳しい中での徒歩移動は大変
- 雨だと徒歩や自転車での移動が困難
- バスは時間通りに来ない時がある

タクシーよりも快適で、バスよりも座りやすかったです。出入り口の部分が低く、頭をぶつけやすいのでお気をつけて！

(怪我防止のクッションあり)

Y.I

実施結果報告書

1. 学校名：サレジアン国際学園世田谷中学高等学校					
2. 学習名称：中学社会地理的分野における「環境交通化」授業の実践（活動 NO. 3）					
3. テーマ：地理的分野の通常の授業において、環境交通の視点を取り入れた教材を作成し、教科学習と環境交通学習の両立を図ることで、単元の理解をより深める。					
4. 実施教科：中学社会地理的分野					
5. 関連単元： ○教科書：東京書籍「新しい社会地理」 (1) アジア州—急速な都市の成長と変化— (2) ヨーロッパ州—国どうしの統合による変化—					
6. 実施単元数：(1) 2.5 時間 (2) 1 時間 ※授業 1 時間＝45 分					
7. 学年	中学 1 年	8. クラス数	3 クラス	9. 生徒数	99 人
10. 実施内容 現在、教育現場には様々な〇〇学習の実施が求められ、飽和状態にあると言える。また、実施した場合でも単発の取り組みになりがちで、生徒たちに定着しづらいという課題もある。本校では、2018 年より（一財）日本自動車研究所大谷亮主任研究員のご協力を得て、中学社会公民的分野に交通の視点を入れた「交通化」授業を実践してきた。活動 NO. 1 で報告した高校「地理総合」におけるデマンド型交通の授業も、その延長線上にある。本報告では中学 1 年生の地理的分野において、環境交通教育の視点を取り入れた単元学習について報告する。 アジア州は、経済成長著しい国々が学習の中心的テーマである。その負の側面として、交通事故の増加が挙げられる。授業ではカンボジアの交通政策を取り上げ、生徒たちが交通事故の被害を減らすために優先して取るべき政策を考え、発表した。生徒たちからは多様な意見が出され、教員からのフィードバックの時間には優れた意見を紹介した。特に、鉄道やバスなどの公共交通機関を発達させることで乗り換えを促し、事故を減らす対策を挙げた意見を取り上げ、それに関連して公共交通機関の役割や日本の国際協力についても解説を行った。 ヨーロッパ州は、EU が単元学習の軸となる。EU の共通政策目標の一つである SUMP（持続可能な都市モビリティ計画）を教材化した。報告者自身、SUMP を知らなかったが、「ヨーロッパ州の学習に環境交通教育の視点を取り入れる」というテーマのもと、教材作成のための情報収集を進める中で、この政策に行きついた。SUMP はヨーロッパ州の学習単元と非常に親和性が高く、さらに身近な地域の交通政策に視点を広げることも可能であり、学習の充実につながった。					

1 1. 学習のながれ：

(1) アジア州の学習における「環境交通化」授業

【前提となる授業】

①ジグソー法を用いた経済成長の条件

アジア州が急速に経済成長を遂げた要因を明らかにするために、ジグソー法を用いた。生徒は「アジア NIES」「中国」「東南アジア」の3グループに分かれて、教科書や資料を活用して、それぞれの経済成長の要因を明らかにした（エキスパート活動）。その後、異なるグループの生徒が集まり、各地域の共通点を探しながら、経済成長の条件を導き出した（ジグソー活動）。

②経済成長による新たな課題

次に、経済成長に伴う課題に着目した。生徒は資料をもとに、アジア州の国々で自動車生産台数や販売台数が伸びていることを読み取った。その上で、交通事故の増加が世界的な課題になっており、国連が交通安全を重点政策の一つとして掲げていることを紹介した。また、日本でも高度経済成長期に自動車の増加にインフラ整備や安全教育が追いつかず、交通事故死者数が激増した歴史を学び、現在のアジア州の国々との共通点を見出した。



国連「交通安全のための行動の10年間」のロゴマーク

【授業の展開】※授業プリントは p. 10 参照

本校では、PBL (Problem-Based Learning) 型授業を導入しており、教員から示された問い（トリガークエスチョン）を各自で分析し、グループ内で発表した後、代表者が全体で発表するという形式の授業を行っている。本実践も、この PBL 型授業の手法に基づいて行った。問いの提示からレポートのフィードバックまでの一連の流れを約 2.5 時間分の授業を使って実施した。

○生徒に示した問い

【前提】

カンボジア政府は 10 年ほど前に 8 項目からなる「交通安全計画」を策定した。しかし、現在、カンボジア国内での交通事故は増加し、深刻な社会問題になっている。

【問い】

「交通安全計画」の 8 項目の中で、カンボジア政府が最も優先すべき項目と関連性があると考え「2 番目に優先すべき項目」はどれか。

□交通安全計画の 8 項目

- ・交通安全管理 ・インフラ整備 ・車両の安全確認 ドライバーの意識啓発
- ・救急システム強化 ・交通法立法と執行 ・運転免許制度の改善
- ・貨客輸送安全性の管理と評価

※参考資料：

岡山県カンボジアビジネスサポートデスク「カンボジアの交通問題」

https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/917537_8777024_misc.pdf

(2) ヨーロッパ州の学習における「環境交通化」授業

本授業実践は、ヨーロッパ州の学習の最後に実施した。

【授業の流れ】※授業プリントは p. 11～12 参照

時間	授業内容
10 分	(1) EU の特徴 (復習) - 教科書を使って EU の 2 つの重要な目的 (経済的な統合と政治的な結びつき) を確認する 「移動の自由」と「共通化」について、学習した内容をふり返り、プリントの表をまとめる Q. 統合が進み移動が自由になる中で、どのようなことが必要になっただろう？ - 交通網の整備が進み、観光業や物流が盛んになったことをまとめる
10 分	Q. EU の経済にとってプラスになっている「移動の自由」は、どのような「負の側面 (デメリット)」をもたらしているだろうか？ - 問いの答えを隣の席の生徒とディスカッションして予想する — (解答例) 移民の増加で仕事を奪われると感じる人がいる、優秀な人材がより高い収入を得られる国に行ってしまう、犯罪者が他の国に逃げてしまうと捕まえにくくなる - 教科書を使って、EU の抱える難民の問題についての記述を確認する。 - 輸送部門を原因とする環境汚染が発生していることを指摘する資料を読む
15 分	(2) SUMP (サンプ) とは？ - 欧州委員会の交通・運輸総局のプロジェクトであるヨーロッパモビリティウィーク*について知る *市民と行政が一緒になって、まちでの移動 (都市交通) を切り口に、個人のライフスタイルから、まち、地球環境まで幅広く考えようという啓発活動のことで、毎年 9 月 16 日～22 日に世界 3000 都市近くが参加して実施されている。 - EUROPEAN MOBILITY WEEK の YouTube サイトより動画*を視聴する *本実践では、「20 Years of EUROPEAN MOBILITY WEEK」「Budapest, winner of the European Mobility Week Award 2023」の 2 つの動画を視聴した。 - EU では政治的結びつきを強めているが、交通政策に関しても同じ目標を持ち、取り組みが進められていることを理解する - そのためのガイドラインとして 2013 年に SUMP が出されたことを含めた EU の交通政策の歴史をふり返る
10 分	(3) 日本と SUMP - 日本において「高齢者の免許返納*」が生み出す新たな課題について、個人で予想する。 *アジア州の PBL 型授業に対応する試験問題で東京の交通事故の被害を減らす方策を考える問題を出題したところ、「高齢者の免許返納」を挙げる生徒が多かった。 — (解答例) 自転車事故の増加、引きこもり、外出の機会が減ることによる社会からの孤立や身体的な衰え - 世田谷区で「地域公共交通計画」が策定されていることを紹介する。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・実際の「地域公共交通計画」の中から、学校の立地するエリアで行われている乗合ワゴンの実証実験についてのページを配付する ・EU の視察団が日本を訪問したニュース*を視聴し、EU と日本が相互に公共交通機関のあり方やまちづくりを学び合っていることを知る <p>*本実践では、『この電車とても好きです』EU 圏内の視察団が路面電車に乗って日本型の公共交通や街づくりを学ぶ【岡山】（RSK イブニングニュース 2023 年 4 月 14 日放送）を視聴した。</p> |
|---|

（補足）

□本報告書に掲載したプリント（p. 11～12）の他、以下を資料として配付した。

①「欧州環境局、航空機など輸送部門の環境汚染が依然深刻と発表」

（国立研究開発法人国立環境研究所「環境展望台」2014 年 12 月 8 日）

②ヨーロッパモビリティウィークの概要

（ヨーロッパモビリティウィーク日本公式サイト）

③世田谷区「地域交通計画」

- ・「交通まちづくり」についてのコラム（p. 1）
- ・乗合ワゴン実証実験を取り上げたページ（p. 81「公共交通不便地域対策の推進」）

□実際の授業の導入部分では、メキシコの大気汚染問題や交通政策について報告者の学生時代の研究を紹介したが、その分生徒が話し合ったり、考えたりする時間をやや短くすることになったこともあり、本報告書の授業案では省略している。

授業プリント

前提：カンボジア政府は10年ほど前に8項目からなる「交通安全計画」を策定した。しかし、現在、カンボジア国内での交通事故は増加し、深刻な社会問題になっている。

問い：「交通安全計画」の8項目の中で、カンボジア政府が最も優先すべき項目と関連性があるとする「2番目に優先すべき項目」はどれか。

資料1 カンボジア政府が策定した「交通安全計画」の8項目とその内容

	項目	内容の一部
1	交通安全管理	・カンボジア国家交通安全委員会・保健省・内務省および教育、青少年、スポーツ省等といった関係省庁の役人に交通安全管理に関する研修を行う
2	インフラ整備	・信号・標識などの交通管理施設の設置、道路の安全状況を監視する ・公共交通機関などの輸送システムを確立および向上させる
3	車両の安全確認	・輸入車両を調査する（カンボジアでは、中古車の輸入に制限がない） ・輸送安全に関するトレーニングシステムを始める
4	ドライバーの意識啓発	・テレビやラジオで交通事故や影響等について様々な内容を放送する
5	救急システム強化	・医療従事者・交通を担当する警察・住民のコミュニティが協力し合うように働きかける
6	交通法立法と執行	・交通を担当する警察に法律や仕事についての研修を施す ・現場での罰金支払いを交通警察事務所での支払いに変更する
7	運転免許制度の改善	・運転免許取得のための技術を教える仕組みをつくる ・その技術を教える教習指導員に対して研修を行い、能力証明書を発行する
8	貨客輸送安全性の管理と評価	・貨客輸送（物資や人を運ぶ）の安全性の管理について研修や調査、評価をする

参考資料：岡山県カンボジアビジネスサポートデスク「カンボジアの交通問題」
https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/917537_8777024_misc.pdf

資料2 カンボジアの交通事故による死亡率推移グラフ

（単位：10万人当たり、2013～2019年）



出典：GraphToChart、「カンボジアの交通事故による死亡率推移グラフ」、最終更新:2022-09-26.
<https://graphtochart.com/health/cambodia-mortality-caused-by-road-traffic-injury-per-100-000-people.php>,
 (参照日時:2024-11-06)

④ ヨーロッパ州—EUの交通政策「SUMP」

(1) EUの特徴 (教科書 p.78)

【EUの2つの重要な目的】 ① (¹ **経済**) 的な統合 ② (² **政治**) 的な結びつき

<特徴>

① (³ **移動**) の自由 (単一市場)

…人・モノ・カネ (資本)・サービスの自由な移動が認められている

*多くのEU加盟国間で認められていることの例

○国境でのパスポート検査なしに自由に移動することができる

⇒ (⁴ **シェンゲン協定**) の加盟国間

※シェンゲン協定に加盟していないEU加盟国もある (アイルランドなど)。

一方で、EUに加盟していなくてもシェンゲン協定に参加している国もある (ノルウェーやスイスなど)

○ (⁵ **関税**) がかからずに貿易ができる

○他の加盟国で自由に居住、就労、学習ができる

② 共通化 (制度や政策・ルール統一)

*多くのEU加盟国間で共通化されていることの例

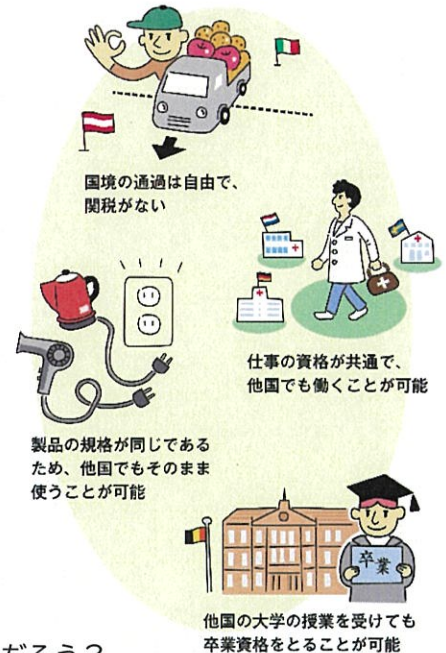
・共通通貨ユーロの使用 (ユーロ圏の国々)

・共通の環境・農業・漁業政策の適用

・欧州議会でEU全体の法律を決める

〔資料1〕EU内で可能なことの例

EU内で可能なことの例



Q. 統合が進み移動が自由になる中で、どのようなことが必要になったろう？

— (⁶ **交通網**) の整備…国境を越える高速鉄道、高速道路、航空路線などの充実



ユーロスター*1

イギリス・フランス・ベルギー・オランダ・ドイツを結ぶ高速鉄道



LCC (格安航空会社)*2

Low-cost carrier
サービスを簡素化して効率化を図り、格安の運賃設定をしている。



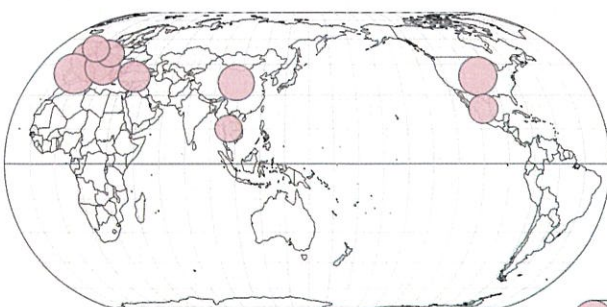
欧州横断輸送ネットワーク (TEN-T)*3

Trans-European Transport Network
EU内の道路、鉄道、空港、水路の各インフラによる輸送ネットワーク

Q. 外国への移動が便利になることで、EUではどのようなことが盛んになっているだろう？

(⁷ **観光業**) の発展…ヨーロッパの重要な産業になる

(⁸ **物流**) の活発化…農産物や工業製品の効率的な輸出入に役立つ



国際観光客数 (2019年) 上位10か国 UNWTO

80,000 (千人)
40,000

問題「外部不経済」とはどういうことを意味する？

- A. ある行動が、知らないうちに他の人に迷惑をかけること
- B. お店が商品の値段を高くしすぎる
- C. 会社がお金をもうけて、大きくなること
- D. 国がルールを決めて、経済を動かすこと

出典: いずれも Wikipedia

*1「Eurostar Class 374」(撮影者: Kabelleger / David Gubler), CC BY-SA 4.0

*2「Ryanair Boeing 737-8AS」(撮影者: Michael Oldfield), CC BY-SA 4.0

*3「Trans-European Transport Network」(作成者: European Commission), CC BY 4.0

Q. EUの経済にとってプラスになっている「移動の自由」は、どのような「負の側面（デメリット）」をもたらしているだろうか？

実施結果報告書

1. 学校名：サレジオン国際学園世田谷中学高等学校					
2. 学習名称：鉄道研究会 探究活動「公共交通機関×安全」(活動 NO. 4)					
3. テーマ：鉄道研究会の活動の一環として、「安全」をテーマに生徒が登下校時に利用する鉄道やバスなど公共交通機関に着目した探究活動を行うことで、公共交通機関の役割を見直すと共に、生徒の登下校時に関する安全意識を高める。					
4. 実施教科： —					
5. 関連単元： —					
6. 実施単元数： —					
7. 学年	中学 2 年	8. クラス数	—	9. 生徒数	鉄道研究会: 3 人 全校生徒: 約 600 人
10. 実施内容 本校では以前より、防災教育に力を入れている。今年度、「環境交通学習」に取り組む教員が、学校安全や防災教育も担当していることから、鉄道研究会の生徒とのディスカッションの中で、「公共交通機関×安全」をテーマにした探究活動が持ち上がったため、追加の活動として実施した。 今年度の具体的な活動としては、(1)東急電鉄二子玉川駅の訪問、および(2)災害地理学の専門家とのディスカッションを行った。今後も探究を続けて、探究活動の成果は、来年度の防災訓練等で全校生徒に共有・還元する予定である。 防災教育においても、来年度は「登下校時の防災」を重点テーマにすることになった。また当初は、防災（地震対策）を中心に探究活動を行う予定であったが、活動の中で鉄道研究会の生徒の関心が広がり、様々な災害対策、防犯、日常の安全行動等に話題が広がった。「環境交通学習」を単独で捉えずに、他の学習と組み合わせることで、活動の広がりが生まれた。					

1 1. 学習のながれ：

（１）東急電鉄(株)二子玉川駅におけるインタビュー調査および施設見学

○事前準備

メンバーで「安全」から連想される質問を出し合い、集まった質問をカード化して、グルーピングを行った。「地震」「火災」「防犯・不審者対応」「日常の安全」「過去の災害からの教訓」など多様なカテゴリーに分類された。作成した模造紙は、二子玉川駅訪問当日に持参し、インタビューの際に活用した。



○当日

二子玉川駅を訪問し、インタビュー調査と施設見学を実施した。インタビューでは、駅長・副駅長・助役の3名にご対応いただき、生徒が考えた質問をベースに、安全対策や駅の運営について直接お話を伺った。施設見学では、災害時に列車の運行を管理する施設を含め、様々な場所を見学させていただいた。駅員の方々から安全対策への取り組みや想いを直接伺うことで、生徒たちは鉄道の安全管理に対する理解を深めた。参加した生徒からは、「自分は鉄道について詳しいつもりだったが、初めて知ることが多く、とても勉強になった」という感想が聞かれた。



（２）専門家とのディスカッション

東京大学 小田隆史准教授（災害地理学）とオンラインでディスカッションを行った。ディスカッションでは、二子玉川駅での活動報告や、防災訓練の企画、探究テーマの深掘りを行った。本校は私立学校であり、生徒は多方面から多様な手段で登校している。そのため、鉄道だけでなく、スクールバスを含むバスや自転車など、他の交通手段における安全対策にも生徒の関心が広がった。



【当日の主な流れ】

①各自の自己紹介と小田先生の研究について伺う

②二子玉川駅でのインタビューと見学の報告

③防災訓練をふり返ろう

- ・これまで自分たちが経験してきた防災訓練について振り返り、課題を考える。
- ・専門家から日本の学校で行われている防災訓練の課題を聞く。

④「登下校の防災」生徒向け企画を考えよう

- ・来年度の全校防災訓練で実施する企画を考える。
- ・防災訓練以外でできる「登下校と安全」をテーマにした取り組みを考える。

⑤「公共交通機関と防災」のディスカッション

- ・「公共交通機関と防災」で探究活動をするなら、さらにどのようなテーマや内容が考えられるかを深める。
- ・専門家から、公共交通機関の災害時の役割について情報をいただく。